

北技保第25号の3
平成30年4月18日

公益社団法人北海道トラック協会会長 殿
公益社団法人北海道トラック協会会長 殿
北海道霊柩自動車協会会長 殿
北海道通運業連盟会長 殿
北海道通運業連合会会長 殿
一般社団法人日本陸送協会北海道支部長 殿

(単名各通)

北海道運輸局長

平成30年度における事故防止対策の徹底について

日頃から自動車交通行政に対し、御理解と御協力をいただきお礼申し上げます。

北海道運輸局では以前から事故削減の取り組みを進めてきましたが、軽井沢スキーバス事故を受け、新たな安全対策が策定されたこと、自動車の先進安全技術の普及が進みつつあることなど自動車事故をめぐる状況変化等があったことから、平成29年に「北海道運輸局安全プラン2020」を策定し、事業用自動車の事故削減目標の達成に向け取り組んでいます。

しかしながら北海道内においては、昨年8月に貸切バスが上川郡清水町、国道274号の日勝峠1合目付近で、道路から約2メートル下の草むらに転落後横転し、重傷者13名、軽傷者35名の負傷者を生じた事故を起こすなど、運行管理の不備によると思われる事故が発生しています。

このような状況を踏まえ、これから本格的な行楽シーズンを迎えるにあたり、輸送の安全確保に万全を期するためにも、法令遵守はもとより、下記事項について重点的に取り組まれますよう、貴会傘下会員に対し周知徹底方よろしくお願ひします。

なお、北海道運輸局のホームページに同通達を掲載したことを申し添えます。

(参考)

北海道運輸局ホームページ>自動車>自動車の保安>9. 保安関連通達等

<http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/jidousya/hoan/index.html>

記

1. 運転者に対する点呼は対面によりアルコール検知器を用い確実に実施し、酒気を帯びた状態及び健康状態（疾病、疲労、医薬品の服用等）、また危険ドラッグや覚せい剤等不法な薬物の使用等により安全な運行ができないおそれがある場合には絶対に乗務させないこと。
特に、対面点呼が実施できない運行については、運転者にアルコール検知器を必ず携行させ、確実に点呼を実施すること。
2. 過労運転の防止を図るため、運行計画、経路の設定等にあたっては、運転者の勤務状況及び疲労の程度を適切に把握し、特に長距離、夜間、早朝の運行に関しては、乗務距離、乗務時間及び休憩時間等を勘案した無理のない乗務割りを作成すること。
3. 乗務員の健康管理については健康診断結果及び「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」を活用するほか、乗務員に対して自己管理の重要性を認識させるとともに、運行中における健康状態の異変等により運行の継続が困難であると判断される場合の対応等について、乗務員への指導を徹底すること。
4. 交差点における右左折時の安全確認、踏切での一時停止と安全確認、道路状況及び道路環境に適応した安全速度の遵守、不要な進路変更の禁止、適正な車間距離の保持・救護措置等、基本的な交通ルールの指導教育を徹底するとともに、運行記録計による記録等により運転者の運転状態を適切に把握し事故防止を図ること。
5. 乗務員にはシートベルトを必ず着用させるよう指導を徹底すること。
6. 車両火災を防止するため、電気装置、燃料装置、制動装置等について、車両の走行距離、使用年数及び走行する道路環境等を十分考慮した点検を行うこと。
7. 運行にあたっては、車両の点検整備を確実に実施するとともに、乗務員に対して制限速度の遵守をはじめとした道路交通法等の法令遵守の徹底を図るなど、安全の確保を最優先するよう関係者に徹底すること。